

令和7年度真庭市内県立高校合同 オーストラリア研修報告書



令和7年9月

岡山県立真庭高等学校
岡山県立勝山高等学校
岡山県立勝山高等学校蒜山校地

研修参加生徒

男子 6名

女子 9名

計 15名

注：個人情報保護のため、この報告書（公開用）では個人名を伏せ、画像中の顔をモザイク処理やイラストで伏せています。

令和7年度真庭市内県立高校合同オーストラリア研修 募集要項

1 目的

「真庭市ゆめ学び創造基金」の支援を受け、真庭市内の県立高校2校1校地の魅力化、ならびに多彩な学びの創造と真庭市で学ぶ高校生の成長と夢の実現を図るために、海外で知見を広め、外国語によるコミュニケーション能力を高める機会を設けることを研修の目的とする。

2 期間・場所・委託業者

- (1) 期 間 令和7年7月19日(土)～8月1日(金)14日間
- (2) 場 所 オーストラリアクイーンズランド州 ブリスベン近郊(一般家庭にホームステイ)
- (3) 委託業者 株式会社アイエスエイ関西支社 050-5804-1754 (担当 古谷さん)

3 参加者の募集

- (1) 募集対象は令和7年度1～3年生とする。
- (2) 在学中、参加は1回のみとするが、応募は複数回できることとする。
- (3) 応募者は参加申込書(様式1)に必要な事項を記入し、本人、保護者の署名のうえ、志望理由書(様式2)を添えて、応募期間内に担任へ提出する。
- (4) 募集定員は15名とする。各校(校地)の応募者数比を参考に協議して定員をそれぞれに割り振り、各校(校地)で選考する。
- (5) 一人当たり旅行代金73万円のうち、真庭市高校魅力化応援事業から60万円が補助される。

4 応募条件

- (1) 社会や学校のルールを守り、学校生活において問題がないこと。
- (2) 研修の主旨、目的を理解していること。
- (3) 志望理由、参加目的が明確であり、具体的であること。
- (4) 英検3級程度の英語で、簡単なやりとりができること。
- (5) 事前に開かれる説明会と研修会、帰国後の研修会、報告会のすべてに参加すること。
- (6) 帰国後に統一様式の報告書を作成し、それぞれの学校(校地)に提出すること。
- (7) 帰国後に各校(校地)で行われる報告会で、在校生に対しプレゼン発表すること。

5 今後の日程

- (1) 募集要項配布 在校生：3月19日(水)終業式
新入生：3月26日(水)新入生登校日
- (2) 応募期間 在校生 4月 8日(火)～14日(月)
新入生：4月 9日(水)～14日(月)
参加申込書(様式1)と志望理由書(様式2)をクラス担任に提出
- (3) 校内選考会 応募期間終了後に筆記試験および面接(英語による自己紹介など)を実施
日程等詳細については各校(校地)で連絡
- (4) 参加者決定通知 4月30日(水)

6 事前説明会

- (1) 第1回説明会 在校生：3月19日(水) 新入生：3月26日(水) いずれも対面
対 象：生徒(新入生対象説明会は保護者同席)
会 場：各校(校地)
内 容：募集要項の配布。業者からの実施要項・説明動画配信と応募方法についての説明。
※在校生保護者には保護者連絡システムを通じて募集要項等を配付する。

- (2) 第2回説明会 5月16日(金) 17:00~18:30 ライブ配信
対 象:生徒・保護者
会 場:各校(校地)または自宅
内 容:渡航に必要な書類について(アプリケーションフォーム、海外旅行保険など)
- (3) 第3回説明会 6月2日(月) 17:00~18:30 ライブ配信
対 象:生徒(保護者も可)
会 場:各校(校地)または自宅
内 容:ホームステイオリエンテーション(マナー・ケーススタディなど)
- (4) 第4回説明会 6月27日(金) 17:00~18:30 対面開催
対 象:生徒・保護者
会 場:勝山高校
内 容:渡航前オリエンテーション
集合時間・場所、旅程詳細、しおり配布、税関申告、海外旅行保険証等の配布など

7 選考方法等

- (1) 応募者数に関わらず各校(校地)で校内選考を実施する。
- (2) 応募者数が各校(校地)に割り振られた定員を上回った場合、校内選考結果の上位から選出するが、研修初年度のため、応募機会の少ない上級学年の生徒を優先的に選出する。ただし、選考結果によっては応募者数が定員内であっても選出されない場合がある。
- (3) 次の①~④の資料をもとに、普段の学校生活の様子も考慮して総合的に判断して選考する。
面接や英語小テストの内容は各校(校地)によって異なる。
- ①志望理由書(様式2)
- ②面 接 面接官は2人または3人。1人10分程度の個人面接。日本語での面接のあと、英語での面接(自己紹介含む)を実施。(英検3級レベル)
- ③筆記試験 英語の基本事項に関する小テスト(10~15分程度)。
- ④英語資格 次の英語資格を取得している場合は選考の際に加点する。証明書の写しを様式1・2に添えて提出すること。
実用英語技能検定(英検)、GTEC、TOEFL iBT®、TOEIC®LR など

※選考の公平性を保つため、志望理由書・面接等選考等について本校教員は指導しません。

8 その他

- ・下のQRコードまたはURLからWebページを開き、参加申込書(様式1)・志望理由書(様式2)を両面印刷し、必要事項を記入して提出すること。同じWebページに業者の実施要項・説明動画があるので、研修日程・内容・旅費等の詳細について保護者と共に確認すること。(この募集要項も同じWebページに掲載)

省略

- ・選考において不正が発覚した場合や応募条件に合致しないことが判明した場合、選出されなかったり、選出が取り消されたりする場合がある。
- ・参加者決定後、研修出発までにキャンセルを申し出た場合には、実施要項(アイエスエイ配布)記載の取消料規定に準ずる。ただし、60万円までの取り消し料については真庭市の高校魅力化応援事業の補助による。
- ・募集要項に関する問い合わせ先 勝山高等学校 0867-44-2628
- ・実施要項に関する問い合わせ先 株式会社アイエスエイ関西支社 06-6374-0446 担当:古谷

プログラムの内容



ホームステイでの異文化体験！
現地校訪問で同世代と交流！



現地大学キャンパスツアー！
大学生との交流！



現地の企業を訪問！
ロールモデルとの出会い！



オーストラリアの知見を深める
様々なアクティビティ！

【1】ホームステイ・現地校訪問を通して異文化体験！ 【2】企業訪問と海外で働くロールモデルとの出会い！

オーストラリアの一般家庭に滞在し、その家のルールや生活習慣に従いながら、英語での暮らしを体験します。ホストファミリーは現地団体が選定します。また、現地の学校を訪れ、現地校生と一緒に授業に参加したり、ランチを共にしたりして交流を深める時間があります。



Mt. Coot-tha (イメージ)

現地の企業訪問・ワークショップの時間を用意しています。また、現地で活躍する医療関係者に来ていただき、日本語での講演を予定しています。お仕事内容や海外で働くことになったことの経緯、海外で働くために必要な力についてお話をうかがいます。

※スピーカーの方のご事情により、医療関係以外の方に変更となる可能性があります。

【3】現地の大学生との交流！

現地の大学を実際に訪問し、生徒6〜7名程度に対し大学生1名が付いてキャンパス内を案内します。海外の大学の規模の大きさやアカデミックな雰囲気を体感できます。大学訪問後は、学生と一緒にリゾート地であるサーファーズパラダイスへ向かい、さらに交流を深めましょう。



大学訪問 (イメージ)



Surfers Paradise (イメージ)



Paradise Country Farm (イメージ)



Queensland Museum (イメージ)

【4】オーストラリアでの様々なアクティビティ！

今回の訪問地ブリスベンにはオーストラリア第3の都市。様々な魅力ある訪問地にご案内いたします。主要な観光地訪問のほか、国立公園で大自然を感じたりファーム体験、カンガルーやコアラの見学も予定しています。

研修地について

クイーンズランド州 (QLD)

世界最大のサンゴ礁グレートバリアリーフと、世界最古の熱帯雨林の2つの世界遺産を楽しむことができるクイーンズランド州。州都ブリスベンやゴールドコーストは観光地として人気が高く、年間245日以上晴天という亜熱帯気候も魅力のひとつ。日本との時差はマイナス1時間です。

ブリスベン Brisbane

人口160万人以上を有するオーストラリア第3の都市。街の中心をブリスベン川が流れ、公園や街路樹などの緑も多く、水と緑の都といった雰囲気です。川の両岸に広がる市街地には、19世紀に建てられた歴史的建造物と近代的な建物が混在しており、新旧それぞれの趣がバランス良く醸し出されています。



委託業者作成資料

研修日程（予定）

	日付	都市名	交通機関	時間	スケジュール	食事		
						朝	昼	夕
1	7/19 土	学校集合 学校発 関西国際空港 関西国際空港発	14:30 15:00 20:30 23:25	専用車 SQ623	学校に集合（勝山高校【勝山スポーツセンター】→真庭高校） 関西国際空港へ向かいます 関西国際空港到着 シンガポールへ向かいます (機内泊)	—	—	各自
2	7/20 日	チャンギ空港着 チャンギ空港発 ブリスベン空港着 研修地	04:45 07:10 16:45	SQ265 専用車	便を乗り換えます ブリスベンへ向かいます 到着後、スタディーセンターへ向かいます ホストファミリーと対面 (ホームステイ)	機内	機内	○
3	7/21 月	研修地	終日		スタディーセンターでオリエンテーション 英語レッスン（前日のホームステイの振り返り、現地での生活） (ホームステイ)	○	○	○
4	7/22 火	研修地	午前 午後	専用バス	バーリー・ヘッド国立公園 パラダイス・カントリー (ファーム体験・カンガルーやコアラの見学) (ホームステイ)	○	○	○
5	7/23 水	研修地	終日		英語レッスン（大学訪問に向けて&オーストラリアの文化） (ホームステイ)	○	○	○
6	7/24 木	研修地	午前 午後	専用バス	大学訪問（現地学生数名によるキャンパスツアーや交流） サーファーズパラダイス (ホームステイ)	○	○	○
7	7/25 金	研修地	午前 午後		企業訪問（企業見学&ワークショップ） ヒンズダム（水不足の問題のついて学ぶ） (ホームステイ)	○	○	○
8	7/26 土	研修地	終日		ホストファミリーと過ごします (ホームステイ)	○	○	○
9	7/27 日	研修地	終日		ホストファミリーと過ごします (ホームステイ)	○	○	○
10	7/28 月	研修地	午前 午後	専用車	ゲストスピーカー（医療系/農業関係者の日本人を予定） 英語レッスン（現地校訪問の準備） (ホームステイ)	○	○	○
11	7/29 火	研修地	終日	専用車	現地校訪問、生徒たちとの交流 1日の振り返り (ホームステイ)	○	○	○
12	7/30 水	研修地	終日	専用車	ブリスベン観光 (マウントクーサ、サウスバンク、クイーンズランド博物館) (ホームステイ)	○	○	○
13	7/31 木	研修地 ブリスベン空港 ブリスベン空港発 チャンギ空港着	午前 11:45 14:45 20:45	専用車 SQ236	スタディーセンターへ集合、ホストファミリーとお別れ 空港へ向かいます 空港到着後、搭乗手続き 経由地へ向かいます 飛行機を乗り換えます (機内泊)	○	各自	機内
14	8/1 金	チャンギ空港発 関西国際空港着 関西国際空港発 真庭高等学校着	01:25 08:50 10:30 15:00	SQ618 専用車	関西国際空港へ向かいます 到着 学校へ向かいます（真庭高校→勝山高校【勝山スポーツセンター】） 到着後、解散	機内	各自	—

☆ご利用予定航空会社…シンガポール航空（SQ）

☆この日程表は2025年2月7日のものです。現地事情や航空運賃の残席状況により以降のスケジュールに変更が生じる場合がございます。

☆食事条件用語の説明…機内：機内食 ○：手配あり 各自：各自にて —：提供なし

☆時間帯の目安…早朝：04:00-06:00 午前：06:00-12:00 午後：12:00-18:00 夜：18:00-23:00 深夜：23:00-04:00

現地受け入れ団体



■ISA Australia

クイーンズランド州の州都ブリスベンを拠点とし、現地留学プログラム情報の提供、留学生に対するアドバイスやカウンセリングを中心の業務としています。
現地では生徒さんが安心して有意義な留学生活を過ごせるよう24時間緊急対応を含め万全なサポート体制を整え、担当カウンセラーが親身に対応しています。



代表：岡本 亮行

委託業者作成資料

1 研修に応募した理由

私は元々海外に興味があり、現地の生活や文化にふれて自分の視野を広げたいと思ったので今回応募しました。また、現地の人と実際にコミュニケーションを取り、英語を使ってもっとコミュニケーションが取れるようになりたいと思ったからです。

2 ホストファミリーおよびホームステイについて

ホストマザー、ホストファザーどちらも料理が上手でご飯がどれも美味しかったです。中でもチキンライスとシーフードスープがとりわけ美味しかったのを覚えています。兄弟の子達とも一緒に遊んだり出かけたりしました。また、おばあちゃんがニュージーランドの方で、ニュージーランドやオーストラリアの事を色々と教えてくれました。

一番この研修で楽しかったことは、最終日の夜にホストファミリーのお姉さんと友達と従兄弟と爆音でドライブをして、デザートを食べに行ったことです。ドバイチョコにイチゴが丸々たくさん入っていました。海外の食べ物は日本と比べてどれも凄く大きくて、最後まで食べるのがしんどかったです。他にも、恋バナをしたり、一緒に写真を撮ったりしました。最後の夜楽しい思い出ができてよかったです。みんながとても親切にしてくださって、とても楽しい時間を過ごすことができました。



3 研修中に困ったことや苦勞したこと

一番苦勞したことは言語の壁です。もっと話したいのに自分の言いたいことを上手く伝えられなかったことがたくさんありました。



以前よりは聞き取れるようになりましたが、頭を使って話すことにすごく疲れました。そのため、理解してもらうためにジェスチャーをしたり、簡単な単語を何度も繰り返し言いました。相手に自分の思いが伝わったときにはすごく嬉しかったです。こうした小さな体験を積み重ねたことで、少しずつ自分に自信が付きました。

4 研修で印象に残ったこと

印象に残ったことは男の子の髪型です。後ろ髪の一部だけを細く伸ばした髪型をしている人がいました。小さい子供や学生の子がやっているのをちょくちょく見かけてびっくりしました。

季節感覚の違いにも驚きました。季節に関係なく海に行き、サーフィンを楽しむ人が多くいました。日本ではあまり考えられない過ごし方で新鮮な気持ちになりました。

学校では、日本とは比べられないほどみんな自由でした。授業中にお菓子を食べたり、パソコンで友達と電話をしたり、友達と話したりしていました。日本のようにみんな同じように静かに先生の話を聞くという雰囲気ではなかったので、あまりの違いに驚きました。



5 研修で学んだこと

私はこの研修を通して挑戦することの大切さに気づきました。最初はなかなか自分から話しかけられませんが、相手は笑顔で返してくれて、そこから会話が弾んで色々なことを知ることができました。そして文化や生活スタイルの違いも知りました。世界には様々な人がいるのだと自分の目で見ることで実感でき、自分の価値観も広がりました。

以前の自分は、他人と比べて焦ったり、こうじゃなきゃダメという考えがありました。しかし、今回の研修で、自分と違う考え方や生き方をしている人を見て、「そんな考えもあるんだ！」と自然に思えるようになりました。この経験を通して今後どんな困難があっても自分を信じて前に進もうと思うことができました。

6 まとめ

この2週間色々なことを学べて充実した毎日を過ごすことができました。そして自分の見る世界がすごく変わりました。何事にもポジティブに自分らしくこれからも頑張っていきたいです！今回の機会を用意し、助成して下さった真庭市をはじめ、サポートして下さった全ての方々に感謝します。本当にありがとうございました。



1 研修に参加した理由

私は、次の3つの理由から研修に応募しました。1つ目は、真庭市に旅行費のほとんどを補助していただき、異国に行ける機会だったからです。2つ目は、海外の文化と生きた英語を学び、またオーストラリアの水不足の現状について知りたかったからです。そして3つ目は、日本語が通じない場所で、今の自分がどれだけ生活できるのかを知りたかったからです。

2 ホストファミリー及びホームステイ

顔写真と家族構成しかホストファミリーの事前情報がなかったため、実際に会うまではとても緊張していましたが、会ってみると自然に受け入れ、話しかけてくれたので一気に緊張がほぐれました。特に、ファミリーが日本に行ったときの話を聞いたことから、たくさん日本の話をし、共通の話題で打ち解けることができました。映画を一緒に観たり、お互いの家族を紹介し合ったり、現地のおすすめの場所を教えてくれたりと、さまざまな話をすることができました。

ホームステイでは、夜、ホストマザーが早く自室に入るため、自由な時間がかなりありました。そこで私は、許可をもらって夜にお好み焼きを作り、ホストファミリーに振る舞いました。また、ホストマザーのご友人のパーティーに参加したり、彼氏の方と一緒にご飯を食べたりもしました。ホストファミリーの家には犬が2匹いたこともあり、ホームステイではとても賑やかで楽しい時間を過ごすことができました。

3 研修中に困ったことや苦勞したこと

現地の先生が英語で授業をしてくださったとき、先生も生徒もお互いに意思疎通しようと頑張っていましたが、なかなかうまくいかず、生徒が疲れて反応がなくなったり、気持ち落ちたりして、授業が微妙な雰囲気になってしまい困りました。

現地の学生とバディを組んで一日過ごすとき、私のバディが欠席していたため、代わりのバディに来てもらいました。しかし、代わりの方はもともとバディを志願していたわけではなかったため、お互いに関わり方が分からず、うまくコミュニケーションを取れませんでした。

また、私が体調を崩したとき、指示された通り添乗員さんに電話をかけても繋がらず、やむを得ず日本のISAに電話をかけることになりました。しかし、オーストラリアの電話番号に日本の番号からかける方法が分からず、困ってしまいました。

4 研修で印象に残ったこと

水が貴重でシャワーや洗濯に制限があると聞いていたので、「シャワー10分は大変だな」と思っていたのですが、実際にホストファミリーに水回りのことを尋ねると「洗濯は日にちが決まっているけれど、シャワーは何時間でも良いよ」と言われ、とても驚きました。家庭によってはかなり自由に水を使えることが分かりました。

また、高速道路が無料で通れることも印象に残りました。走っている感覚は日本の高速道路と同じでしたが、お金を払っていないので一般道なのかと思い聞いてみると、「高速道路は無料で通れるけれど、その分税金を払っている」と教えていただきました。日本のように毎回料金を払わなくても良いのは楽ですが、その一方で、休日には多くの人が気軽に利用するため、とても渋滞するのは大変だと思いました。

気温については、朝は凍えるほど寒いのに、昼は日が照ると半袖でも過ごせるほど暖かく、寒暖差が大きいと感じました。特に朝はとても寒いにも関わらず、登校中の学生が長袖や半袖に短パンで登校していて、とても驚きました。

オーストラリアの英語は「バター」や「ウォーター」の発音がイギリス英語に近く、tの発音がはっきりしていることにも驚きました。

オーストラリアの高校では、教室で使っているプロジェクターが真庭高校のものとメーカーまで同じで、親近感が湧きました。また、学生は日本より活動的で、お昼休みは外で食事をしながらスポーツをしていたのが印象的でした。

犬の飼育方法も日本とは少し違い、肉のドリップを「ジュース」と呼んで犬に飲ませたり、ピザを与えたりしていて、餌がとてもジャンキーだと感じました。

家は一階建てが多く、空がとても広く見えました。富裕層の家は門で区切られていて、特別感がありました。

5 研修で学んだこと

今回のオーストラリア留学では、現地での授業や生活を通して多くの貴重な学びを得ることができました。授業では、オーストラリアの文化について深く学びました。カンガルーやコアラといったオーストラリア固有の動物について学んだときには、豊かな自然環境が人々の暮らしに大きく影響していることを理解しました。また、先住民アボリジニーの歴史を学ぶことで、多文化共生社会の成り立ちを考えるきっかけとなりました。さらに、サーフィンが国民的スポーツとして広く親しまれていることを知り、自然と文化が密接につながっていることを実感しました。

一方、日常生活でも多くの気づきがありました。特にキャッシュレス決済の普及やスーパーの無人レジの導入など、社会全体の効率化が日本より進んでいることに驚きました。利便性を重視する生活に触れ、日本の社会の現状や今後の課題を考えるきっかけになりました。また、日本のアニメや食文化が現地の人々に広く受け入れられていることを知り、日本文化が海外で大きな影響を持っていることを実感し、誇りに思いました。

さらに、水不足の問題についても学びました。当初は深刻で不自由な生活を想像していましたが、実際には法律や制度によって水の使用が制限され、社会全体で節水が徹底されていました。そのため、生活に大きな支障はなく、持続可能な資源管理のあり方を考える貴重な体験となりました。

加えて、英語学習の面でも重要な気づきを得ました。現地での会話を通して感じたのは、完璧な文法よりも単語力が必要だということです。限られた語彙でも積極的に話すことで意思疎通が可能であり、「生きた英語」を実際に体感することができました。

これらの経験を通して、私は異文化を理解するだけでなく、自国を客観的に見つめ直す力を養うことができました。今後もこの学びを活かし、広い視点を持って学習に取り組んでいきたいと思います。

6 まとめ

私は、研修期間中だけでなく帰国してからも、本当に貴重な2週間だったと感じています。真庭市の助成のおかげで、この研修にかかる費用の自己負担が少なく、金銭面で諦めることなく、勇気を出して応募することができました。このような機会を用意くださった真庭市には、いくら感謝してもしきれません。また、ISAの古谷さん、現地の添乗員の佐々木さんと渡辺さん、現地のダミアン先生、ホストマザー、一緒に行った高校生の皆さん、そして私の両親、関わってくださったすべての方々に心から感謝しています。

今回の経験は、これからの大学生活や人生の中で必ず活かしていきたいと思います。将来もしまた留学の機会があれば、今回の研修で感じた「これを持って行けばよかった」や「もっとこんな経験をしておけばよかった」という反省点を活かして準備し、生きた英語を実際に使えるよう努力していきたいです。

また、私はこの研修の一期生として、期間中に「次の研修生に伝えたいこと」を都度メモしていました。それらをまとめた資料を作成し、研修生同士の交流会などで共有することで、この研修の発展につなげていきたいと思っています。

改めて、忘れられない思い出を作ることができましたこと、関わってくださったすべての方々に感謝します。本当にありがとうございました。

1 研修に応募した理由

旅行代金を助成してもらえるとという非常にありがたい条件で海外へ行けるせっかくの機会と思い、受かる受からない関係なく、自分にとって後悔しない選択をするために今回応募しました。また、現地の文化や価値観に積極的に触れ、広い視野を身につけたいと思ったからです。

2 ホストファミリーおよびホームステイについて

正直なところ最初は不安の気持ちでいっぱいでしたが、いざホストファミリーとお会いするととても優しく、親身になって色々とお世話してくださいました。常に自分たちのことを考えてくれていて、普段は作らない料理を作ってくれたり、自分が行きたかったお土産屋さんやショッピングセンターなどに行かせてくれたりしたので、とても充実したホームステイでした。



オーストラリアでは水が貴重ということを事前に聞いていましたが、水のことも「あまり気にしなくていいよ」と言ってくれたので、精神的にも落ち着いて生活できたと思います。週末は **MOVIE WORLD** という遊園地に行ったり、ツインフォールズという滝を見に行きました。日本の遊園地と違ってどれも絶叫系でハラハラしました。そしてツインフォールズを見に行ったときには雨だったのですが、とても高いところから見たので絶景でした。「晴れていたらもっときれいだよ」とホストファミリーが言っていました。

3 研修中に困ったことや苦勞したこと

最初から重々承知していたことなのですが、やはり言語の壁が一番困りました。伝えることも難しかったのですが、聞き取って理解することも難しく、毎日苦戦していました。しかし同じく研修に参加していた友達が多くの場合で助けてくれてとても助かりました。

それとともに、仲間という大切さにあらためて気づけました。そして自分では気づけなかった魅力や課題を仲間との関わりの中で発見できました。挑戦しても失敗しても仲間がいるから立ち上がることができて、一歩踏み出す勇気も持てました。

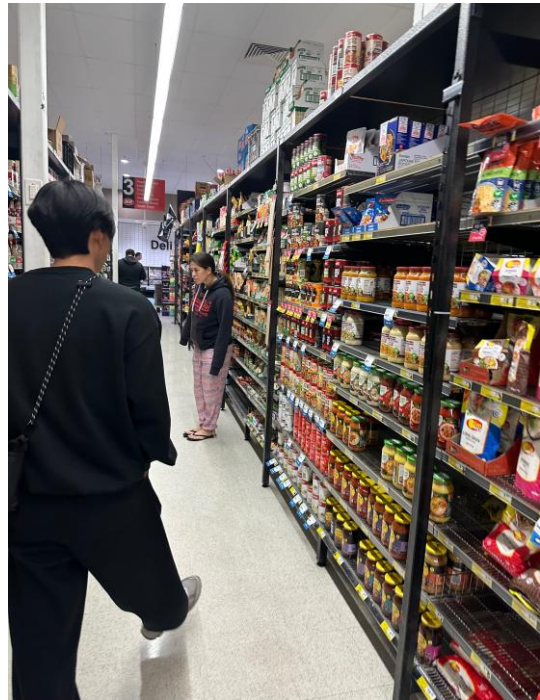


4 研修で印象に残ったこと

朝食が主にシリアルだけということに驚きました。研修1週間の朝食はシリアルだけだったのでかなりお腹が空きました。

車に乗った時にシートベルトがとても硬かったことも印象的でした。オーストラリアの法定速度が日本と比べてかなり速いのでシートベルト着用が日本以上に徹底されていました。

日本もですが、オーストラリアはとても海が綺麗でした。秋なのに海でサーフィンをしている人がいて驚きました。その他にもオーストラリアではモーニングティーという時間があることやサーファーズパラダイスにあったスリングショットというアトラクションの料金が2人で10000円掛かったことを含めた物価の違いなど様々な場面に日本との違いを感じました。



5 研修で学んだこと

海外では自分をすごく大切にしている感じが伝わりました。知識として“nap”は「30～60分寝る」という意味だと分かり、sleep よりもたくさん使える単語だなと思いました。

自分が成長したと思う点として、自分から積極的に動こうという心意気と実際に行動する力が挙げられます。研修期間中自分から動かないといけない場面が何度もあり、繰り返しその経験を積み重ねたことで徐々に自分に自信がつくようになりました。

6 まとめ

自分たちは第1期生として参加でき良かったと思います。苦労することはたくさんありましたが、現地で実際に体験することは何事にも代えがたい貴重な経験になり、いい思い出となりました。高校生のうちに海外へ行くことと金銭面でも簡単ではないと思います。

この研修に参加して、海外に興味を持ってくれる人が少しでも増えて欲しいです。もし今後もこの研修が継続されるのであれば、行くか行かないか迷ったときには、今回私がそうしたように一歩踏み出すというチャレンジ精神を持ってもらえると、仲間として嬉しく思います。今回のオーストラリア留学に参加でき、一生忘れない思い出を作ることができました。サポートしてくださったすべての方々、本当にありがとうございました。



1 研修に応募した理由

オーストラリアという異国の地で、英語が飛び交う環境で生活してみたいという思いがありました。日本とオーストラリアの文化の異なる点と似ている点を、実際に体験しながら自分自身で深く理解したいと考えていました。さらに、将来海外で働くことを視野に入れる中で、オーストラリアの企業が求めるスキルや働くために必要なことについて学び、この経験を通じて、自分の視野を広げ、国際的な視点を持つことができればと思っていたからです。

2 ホストファミリーおよびホームステイについて

随所に文化の違いを実感しましたが、私達を常に気にかけてくれて、少しでも良い思い出が残るように、色々と考えてくれていました。気さくで、大らかな人でしたが、家族の一員として受け入れてくれ、接してくれたので、とても感謝しています。ただ、日常生活（特に衛生面について）は、日本での生活とギャップがありました。

料理がとても苦手と言っており、ホームステイ初日の夕飯が、餃子もどきとシュウマイもどきだったのですが、つけダレが3種類あり、そのうちの1つが黒蜜でした。食べた瞬間「甘い!?!」とびっくりしたのと、あまりにも私の食体験にはない組み合わせだったので、黒蜜の、この料理との相性が理解できませんでした。オーストラリアの人は、なんでも「甘い」ものが好きなのかと思いました。初日から、これからの2週間に一抹の不安を感じずにはいられませんでした。

余談ですが、前情報として「Small Dog」と書いてあったため、チワワかトイ・プードルのような大きさを想像していましたが、実際は中型犬ぐらいの大きさの犬でした。「日本だったら、君は決して小さくない」という感想が「Small Dog」と会ってすぐ出ました。



3 研修中に困ったことや苦勞したこと

今まで学んできた発音では、なかなか通じなかった単語がありました。例えば、「お土産」という単語ですが、オーストラリアのイントネーションは抑揚が凄く強く、私の発音では通じず、最終的にスペルで伝えることとなりました。

また、大抵の日本人は、相手が何を伝えたいか、聞き取ろうと努力しますが、現地の人は分からないなら分からないで、

そのまま理解しようとしません。上手く解決できなかったため、諦めました。「時には、諦めることも大切」と、この研修で学びました。

4 研修で印象に残ったこと

現地校の先生が生徒に対して質問していた内容にびっくりしました。それは、「今日の朝、シャワー浴びてきた人」「2週間以内に歯を磨いた人」でした。

それを聞いた瞬間目が点になりました。また、それに対する返答にも目が点になりました。シャワーを浴びてきた人は、クラス内に8人中4~5人居ましたが、歯を磨いた人は、2人ほどしかいませんでした。この質問で、「歯って毎日磨かないんだ」「え、虫歯にならない？」という疑問が一気に溢れかえりましたし、ここでも日本の感覚が全く違うなということが分かったので、面白かったです。



5 研修で学んだこと

最初の一週間ほどは、話される英語が速すぎて聞き取れなかったし、オーストラリアのイントネーションが、習っていたものと違うので、聞き返すことがとても多かったのです。しかし、一週間経過すると、オーストラリアのイントネーションに慣れてきたようで、一回で聞き取れるようになりました。また、ホームステイ先では、二人部屋だったので、ルームメイトと仲良くなれました。私が聞き取り役、もう一人が喋る役、という役割分担ができていたため、それも良い体験となりました。短期間であまり喋れるようにはなれなかったけど、聞き取りは、上達したと感じました。



6 まとめ

日本で身についた感覚が通用しにくい可能性が高いです。いかに日本が安全で治安の良い国であるかが、身にしみて分かりました。オーストラリアは比較的他国に比べると治安の良い国ですが、目を離した瞬間、盗難にあうかもしれないということを念頭に過ごしたほうが良いです。

現金よりプリペイドカードを持っていくことをお勧めします。理由は、細かいお金の計算をしないで済むからです。プリペイドカードの中でも、日本から入金できるような仕組みのカードもあるので、そのほうが尚良いです。

海外に行くなら、自分の常識の壁を壊していきましょう。そのほうが、きっと楽です。

1 研修に応募した理由

私が研修に応募した理由は2つあります。

1つ目は実際に使われている英語を知り、少しでも将来に活かしたいと考えていたからです。私は将来英語を使った職業に就きたいと思っています。そのためにはまず実際に使われている英語を知ることが大切だと考えました。

2つ目はいろいろな価値観を知りたいと思ったからです。国が違えば文化も異なるので生活の仕方が違うことはなんとなく知っていましたが、自分の目で見て、肌で感じる自分が自分にとってとてもいい経験になるのではないかなと考えました。



2 ホストファミリーおよびホームステイについて

最初は話される英語の速さに慣れず聞き取ることが難しかったり、日本との違いに驚いたりすることがとても多く、ホストファミリーとの生活に慣れるまでに時間がかかりました。しかし、日本にいるときには体験できない海外の生活や、家族の一員として接してもらうことなど、確実に自分のためになる経験をする事ができたと思います。

日本では来てくれた人におもてなしをすることが多いけれど、私のホームステイ先では普段の生活の中に私たちが入ってきたような印象をすごく受けました。それぞれの文化の違いを知ることができ、とてもおもしろかったです。

3 研修中に困ったことや苦労したこと

ホストファミリーとの会話が一番苦労しました。ホストファミリーの話す英語が速くて聞き取ることができなかったり、知らない単語が出てきて意味を理解することができなかったりして会話を繋げることがとても難しかったです。

しかし、文章の意味を理解することができるようにゆっくり話してほしいとホストファミリーにお願いしたり、分からない単語はスペルを教えてもらって翻訳したりすることで段々と会話を繋げることができるようになりました。

ホストファミリーと話す話題についても困りました。あまり私が英語を話すことができないこともあり、最初は会話が少なかったです。ですが、送り迎えをしてもらっていた車の中で1日に一回は質問ができるように考えて、会話が弾まなくても自分から話しかけていくことを意識していきました。



4 研修で印象に残ったこと

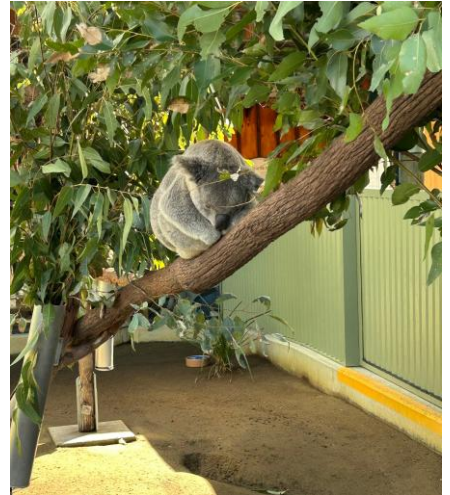
バディーと1日過ごしたときに、翻訳機を使いながらも日本とオーストラリアの違いについて話すことができたことです。実際に現地の高校の授業を見て学ぶことも多かったけれど、その場で学んでいる生徒から話を聞くことでリアルな違いを知ることができました。自分から話を振ることができたし、相手から話を振られたときにも会話を繋げることができ、自分の成長を感じることができました。

5 研修で学んだこと

コミュニケーションの仕方や、オーストラリアと日本の違いについて自分で体験して学ぶことができました。

頑張っても英語が伝わらないときは、身振り手振りをしたり、紙に書いたり、発音を見直してみたりすると伝わりやすくなることがわかりました。

オーストラリアと日本の違いについても最初は戸惑うことが多かったけれど、ホストファミリーに教えてもらったり、生活の中で学んだりすることができました。



6 まとめ

私は今回の研修を進路の選択について活かしていきたいと考えています。2週間だけでは学べることはとても少なかったけれど、実際に行ってみたからこそ分かることがとてもたくさんありました。そして、もっといろいろな国に行っているいろいろなことを知りたいと思うようになりました。そのために自分がこれからどうしていくのかを決める材料の一つに活かせばいいなと思っています。

もし少しでもオーストラリア研修に参加してみたいという気持ちがあるのなら挑戦してみてください。苦勞することや困ったこと、不安になることももちろんあるけれど、それ以上の貴重な体験をすることができると思います。



1 研修に応募した理由

オーストラリアという、色々な人種がいる国で様々な経験や言語の違いなどを学ぶことができる留学ができるという貴重な体験をすることができるのは今回の研修でしか体験できないと思ったので応募しました。



2 ホストファミリーおよびホームステイについて

ホームステイ先のホストファミリーはとても優しくとてもフレンドリーでとてもいい人たちでした。「次オーストラリアに来る時は迎えに来てあげるね」とも言ってくれました。



3 研修中に困ったことや苦労したこと

主食がお米ではなく基本的にパンで、朝ごはんもあまり多くなく、代わりにお昼ご飯が多いなど食生活が日本と全く違うことに困りました。解決法は耐えることです。

4 研修で印象に残ったこと

オーストラリアの人たちは全然差別などがなさそうに生活をしていて人のタイプは色々だけどいじめなどが全然なさそうなのがとてもいいなと思いました。そしてみんながオープンな感じでいい人がたくさんいました。



5 研修で学んだこと

日本もそうだけどその国にはその国の良さがあるということがわかりました。日本には日本の良さが、オーストラリアにはオーストラリアの良さがある。これが学んだことの一つです。



6 まとめ

今回勝山高校からは僕を含めて11人の生徒が研修に参加しました。今回の研修で感じたことは絶対に申し込んでいくべきだと思いました。控えめに言って今回の研修は最高でした。絶対に行くべきだと思いました。来年はぜひ他の人にも体験してほしいと思いました。

1 研修に応募した理由

将来大学の国際学部などに進学したいと思っており、今の自分の英語スキルのままでは十分ではないと思っていたところ、オーストラリア研修のことを耳にしました。父や母、伯父なども学生の頃にカナダやイギリスへのホームステイ経験があり、必ず自分のためになると後押しされた結果、この研修への参加を希望しました。また、SNSなどを通じて海外の方と交流した経験が多少あったことから、現在の自分の英語スキルが海外の日常生活でどれほど通用するのかという興味があったことも理由の一つでした。

2 ホストファミリーおよびホームステイについて

私の家庭には、ホストマザー、ファーザー、私と同年代の息子がいました。一日の主な流れは、16:30頃帰宅、シャワーを浴びて19:10頃に夕食が終わり、1時間ほどボードゲームを楽しみ、あとは各自の時を過ごすというものでした。一般的な日本の生活と特に違った点は、入浴時間の短さと一日の生活リズムです。オーストラリアは水がとても貴重であるため、1回の入浴時間は10分程度しかありませんでした。そのため日本人である私にとっては個人的に非常に耐え難いものでした。しかし、家族全員22:30くらいには就寝し6:20くらいに起きるというとても健康的な毎日を送っていました。ほぼ毎晩私はホストファミリーとボードゲームを会話をしながら楽しみました。私のホストファミリーは苦手な食べ物があった際の配慮や、ショッピングや観光地へ休日に連れて行ってくれるなど、貴重な体験ができる場をたくさん用意してくれました。まさに温良篤厚でした。



3 研修中に困ったことや苦勞したこと

私は研修中困ったことが大きく分けて2つありました。まずは現地学生と一緒に一日学校で過ごしたことです。私のバディー（わからないことがあった際の対応や一緒に授業を受ける人）は14歳の子でしたが、授業の内容は日本のものとかなり違いがあった印象があります。殆どの授業では、何か題を与えられ自分一人で黙々と考えて最後に友達と共有するというものでした。ここまでは日本の学校でも多く見られる例なのですが、与えられる題がユニークなもので結果的にやらなければいけないことが全体的に難しくなりました。そのため、一時的に「案が現実的でなければいけない」という日本の考え方をやめることでなんとか乗り越えました。そして2つ目は、休日にホストファミリーの長女と夕食をとるため会いに行



くということがあったのですが、それだけ伝えられ実際にその場所へ足を運んでみると、ただの夕食会ではなく基督教の勧誘パーティーであったということです。これを読んでいる方も「どういうこと？」と思うかもしれません。私も同様に、この場へ足を運んだ瞬間から困惑していたのです。この時点で既に困っていたのですが、まだパーティーは始まってすらいません。次に先程の長女の方へ、ある部屋へと誘導されました。しばらくそこへ待機して

いると、何人か関係者らしき人たちが入室してきて歌い始めました。これが終わった後、関係者のトップであろう人が「Jesus」についての公演を始めました。もちろん英語です。40、50分の講演の後、学んだこと、与えられた質問に対する自分の解答の共有という時間が始まりました。周りは大人の方々ばかりでした。そして質問内容の一例として「イエスの人格を知り、あなたの人生をどのようにしたいですか。」などといったものが与えられるのです。最も苦労したのは、これが英語で言われ、日本語での意味を理解したとしても難しいものであるということです。私はとにかく、簡単な英語でもいいので自分の意見を伝えようとしました。結果的に、向こうもなんとか理解してくれました。そこで私は、できる限りのことをすることの大切さを知りました。

4 研修で印象に残ったこと

私は外国に行く前、アジア人差別などの問題をととても恐れていた。しかし想像していたものとは全く違って、大人子ども関係なく差別などという概念を一切感じない国でした。たくさんの外国人を受け入れている多文化主義のオーストラリアだからこそです。それどころか、たくさんの人と交流したにもかかわらず、歓迎してくれ、日本のよいところをたくさん話してくれました。

2日目に、ステーキハウスへ連れて行ってくれたのですが、その際に無料でマジックを見せてくれるという男性が近づいてきました。私はまだマジックを実際に見たことがなかったのですが、披露してくれた際には思わず声に出してとても驚いてしまいました。正直これが一番記憶に残っています。しかし、これも含め毎日が新しいことばかりで最高に楽しかったです。



5 研修で学んだこと

先程述べたキリスト教の方たちと会話をする中で、やはり自分の英語スキルの現実と悔しさをととても感じました。しかし、英語の勉強に対する気持ちは前より強くなったと感じます。日本とは人も土地も全く違った新しい場所で生活することは、難しくも必ず経験としてよいものになると思います。研修を通し、自分が、日本がどれだけ衛生的にも食文化的にも恵まれた国であるのか深く感じました。

6 まとめ

正直に申し上げますが、2週間だけではオーストラリアを学びきれなかったと個人的には思います。オーストラリアでショッピングをしている際に、30年働き続けている女性の方にお会いして話をしましたが、「全然足りないじゃん。」と言っていました。家に帰ってきてから、自分の英文を書く際のスピードや考え方は“多少”は前よりもベターになったと感じます。また、オーストラリアの文化を通して日本と比較し互いに良し悪しを見つけることはもちろんできました。しかし、やはりこの約2週間という短い期間で英語のスキルを格段に向上させ、ホストファミリーと本当の家族のように暮らすといったことは難しいと思いました。ですが、真庭市から多額の補助していただき、少ない費用で2週間も外国に滞在できる経験なんて人生で一度あるかないかのチャンスです。少しでもいいから英語に興味がある方、異文化理解や友達を作ることが気になっている方に進んでこの研修を体験してもらいたいです。

第一回目という闇雲に覆われたものであるからこそ、私のこのような意見が生まれました。これ以上ホームステイの期間を延ばすことは膨大な費用がかかり、受け入れてくれる家が少なくなるなどの問題が増えるなど、とても実現困難なものになってしまうはずですが、次回の研修への一案として取り入れてくれると嬉しいです。そうすればきっともっとたくさんの学生がこの素晴らしい企画へ興味を抱いてくれると思います。

私事ではありますが、私には第二外国語としてイタリア語を習得して現地へと飛び立つという夢があります。このオーストラリア研修を受けるまで私の外国に対するイメージは不安に溢れていましたが、ホームステイを通して懸念から期待へと変わっていきました。そして、まずは大学受験への準備として今回得た課題とスキルを活かしていきたいと思います。今回はこのような素晴らしい企画を提案してくださりありがとうございました。



1 研修に応募した理由

異なる文化の中で実際に生活し、英語を使って現地の人々と交流することで、自らの視野を広げ、語学力やコミュニケーション力を高めたいと考えていたからです。これまで授業で英語を学んできましたが実際に使う機会は限られていました。この研修を通して教科書では学べない「生きた英語」に触れる事で、より実践的な力も身につけたいと思いました。また、英語での会話を重ねる中で、自分の考えを相手に伝える力や、相手の考えを理解しようとする姿勢も磨きたいと思いました。オーストラリアの文化や価値観に直接触れることで、多様な考え方を受け入れる柔軟な心も育みたいと思っていました。私は将来教育系の職につきたいと思っていますが、まだ明確に決まっていないからこそ、この研修を通して将来と向き合い、夢への一歩になるような経験をしたいと強く思い応募しました。



2 ホストファミリーおよびホームステイについて

最初とても不安でしたが、ホストファミリーはとても親切で、私が英語を理解しやすいように、ゆっくりと分かりやすく話しかけてくれました。そのおかげで、毎日たくさんの会話を楽しむことができ、笑顔が絶えない温かい時間を過ごすことができました。一緒にショッピングセンターに行ったり、コアラを見にコアラセンターへ行ったり、きれいなビーチを2か所も訪れるなど、観光もたくさん体験させてもらいました。特にビーチでは、きらきらと光る海と広い空に感動し、ホストファミリーと笑い合いながら景色の写真を撮ったり、ホストファミリーの子供と鬼ごっこをしたりした思い出が印象に残っています。食事中的会話や移動中のちょっとしたやり取りなど、日常の中にも英語でのコミュニケーションの機会が多くあり、「伝えることの楽しさ」と「伝わる喜び」を実感しました。文化や言語が違っていても、心が通じ合う体験ができたことは、私にとって一生忘れられない思い出です。



3 研修中に困ったことや苦勞したこと

研修中に特に苦勞したのは、英語の授業で何度もプレゼンテーションを行わなければならなかったことです。すべて英語で進められるレッスンの中で、特に、想像力を働かせて自分たちで製品を考え、それを英語で発表するという課題が難しかったです。アイディアを考えるのは楽しかったのですが、それを英語で説明するとなると、言葉がなかなか出てこなかったり、発音や文法に自信が持てなかったりして、何度も不安を感じました。しかし、同じグループの仲間や先生が教えてくれたり、アドバイスをしてくれたりしたおかげで、間違いを恐れずに挑戦する気持ちを持てるようになりました。

4 研修で印象に残ったこと

現地で活躍されている日本人医師・長島たつお先生のお話を聞いたことです。長島先生は日本の医師免許に加えて、オーストラリアでのジェネラルプラクティショナー（家庭医）の専

門医資格を持ち、日本語と英語の両方で診療を行っています。最初はブリスベンの新生児集中治療室で勤務し、その後も多くの医療現場で経験を積み、現在は多様な患者に対応できる総合診療医として活躍されています。特に印象的だったのは、長島先生が非常に幅広い分野の診療に対応されていることです。糖尿病や高血圧といった慢性疾患、肥満や精神疾患、HIVや性病の治療、妊娠や女性の健康、皮膚がんの治療など、多岐にわたる医療に関わっている姿に感銘を受けました。長島医師がオーストラリアでなぜ働こうと思ったのかいろいろな説明を聞く中で、日本だけでなく世界のスタンダードを知ったり、オーストラリアで学んだりした知識をいつかは母国に還元したいと思ったからだということがわかり、その姿勢に深い尊敬の念が芽生えました。長島先生はこれからの人生は仲間を募り、ブリスベンにあるクリニックを日本にも作り、世の中にオーストラリアの医療を知らせ、特に精神疾患の人を薬で治すのではなく、カウンセリングなどで治療を行う方法を取り入れたいとおしゃっていて、その目標が叶うことを私は強く願いました。

5 研修で学んだこと

文化や言語の違いを越えて人とつながることの大切さ、そして多様性を受け入れる社会の姿勢について多くを学びました。現地の人々との交流を通して感じたのは、「違いを認め合うこと」の素晴らしさです。オーストラリアでは、さまざまな国や背景を持つ人たちが互いを尊重しながら生活していて、日本ではあまり意識していなかった多文化共生という考え方に触れることができました。また、英語での会話やプレゼンテーションなど、はじめは緊張してうまく話せなかった場面もありましたが、毎日少しずつ挑戦することで、「伝えようとする気持ち」が何よりも大切だということに気づきました。失敗を恐れずチャレンジすることの大切さを学び、自分の中で大きな自信になりました。さらに、海外で活躍している医師の話聞いたことで、教育しか興味を持っていなかったが、「自分も将来、国を越えて誰かの役に立てる人になりたい」と考えるようになり、視野が大きく広がりました。将来の目標や進路について、より深く考えるきっかけとなったことも、大きな学びの一つです。

6 まとめ

今回のオーストラリア研修を通して、言葉や文化の壁を越えて人とつながることの楽しさや、自分の将来について深く考える大切さを実感しました。この経験を通じて得た自信や気づきを、今後の学校生活や進路選択にしっかりと活かしていきたいです。特に、積極的にコミュニケーションを取る力、多様な考え方を受け入れる姿勢は、これからの社会でますます必要になると感じました。来年度の応募を考えている皆さんへ伝えたいのは、少しでも興味があるなら、ぜひ挑戦してみてほしいということです。そして何よりも、「自分の知らない世界に飛び込む勇氣」を持ってほしいと思います。不安や緊張はあって当然。でもその先には、今までにない出会いや発見、自分の新しい一面が待っています。自分の可能性を信じて、ぜひ挑戦してみてほしいです。



1 研修に応募した理由

私が研修に参加を希望した理由は大きく3つあります。

まず、高校生という限られた期間に多くのことを経験したいと思ったからです。

2つ目は、英語力が高まると思ったからです。英語だらけの環境にすることで、半強制的に英語に慣れることができました。また、自分の勉強していたことが活かされ、これまでの勉強は無意味ではなかったんだ、という達成感がありました。そして、同時に自分はまだまだ力不足の部分があるなとはっきり認識することができ、これからの学習意欲も湧きました。

3つ目は、日本と世界の違いを体感したいと思ったからです。事前に調べたことで、日本では「精神科に行く」は悪いこととして捉えられがちですが、オーストラリアでは「カウンセリングに行く」というのは普通のことであり、なぜなのだろうと思っていました。そして、医師の方のお話を伺ったことによりできた考察があります。それは、心理士が身近にいることなのではないかということです。日本では心理士のカウンセリングを受けようと思うと病院に行くしかありませんが、ブリスベンではかなりの数のカウンセリングのセンターのようなものがあるらしいので、気軽に行くことができるのかもしれない。

2 ホストファミリーおよびホームステイについて

はじめはどんな人だろう、聞き取れなかったらどうしよう、と不安でいっぱいだったのですが、いざ家に行ってみると家族が温かく迎えてくださいました。

最初の夜ご飯はハンバーガーで、量が多くて食べ切れなかったのですが、食べられる量だけでいいよ、謝らないで、と言ってくださり、本当にありがたかったです。

初めの方は謝ってばかりだったけど、徐々に謝る代わりにありがとうと言えるようになりました。

ホストファミリーの子どもたちはふたりとも素直でかわいかったです。帰ったら一緒にゲームをして過ごしたのですが、私が日本でもプレイしていたものと同じもので、全く違う環境の中でゲームを通して繋がることができた気がしてとても嬉しかったです。

3 研修中に困ったことや苦勞したこと

研修の中盤、金曜日辺りに急にお腹が痛くなってしまい、不安になったのですが、トイレに行ったり、たまたま持っていた吐き気止めを使ったりして事なきを得ました。その後から整腸剤を飲むようにするともうお腹が痛くなることはなかったので安心しました。



4 研修で印象に残ったこと

一番は、ホストファミリーの誕生日を祝ったことです。まさか誕生日が研修中にあるとは思ってもいなかったの誕生日プレゼントは持ってきていなかったのですが、簡単なバースデーカードを作ってプレゼントしたらとても喜んでいただけて嬉しかったです。

また、私達があげた日本のお土産をリュックにつけてくれていたのも嬉しかったです。

驚いたのは、ベジマイトの味です。「世界一まずいジャム」と言われていることは知っていたので、食べさせられそうになったとき吐き気までしていたのですが、実際食べてみると案外食べられるもので、おそらく研修生15人の中でも友達のものももらって3枚も食べたのは私だけだと思います。絶対食べないと思ってお土産にも買って帰りましたが、案外自分で食べ尽くすことも可能かもしれません。

5 研修で学んだこと

オーストラリアと日本の違いについてです。1でも挙げたように、私は心理学に興味があります。事前に調べた結果によると、オーストラリアの人々はストレス耐性が高く、「社会的楽観主義」が強い傾向にあるようです。しかしその反面、精神的に病んでしまう人は少なくないそうです。ではなぜ、社会的楽観主義が強いのか。それは、1にも挙げた通り、相談できる施設が多いこと、気軽に相談できることからであると考察できます。また、日本では精神科に行ったとしても、まともに話を聞いてもらえずに薬をもらい、薬に依存してしまうということが起こっているのに対し、オーストラリアではなるべくカウンセリングで治そうとするそうです。

このことを活かして、日本でのメンタルクリニックを増やすための第一歩として心理学の勉強をし、相談しやすい施設をつくりたいと考えるようになりました。

6 まとめ

私はこの留学の目的の一つにグローバルな視点を身につけることができました。2週間を経て、今までと日本の見え方が全く異なるかと言われたらそうでもないのですが、オーストラリアでは高速道路が無料だったので、なぜ日本はお金をとってるんだろう、という疑問が生じました。



とても貴重な体験であると感じました。自分の学校以外の人とも集まって新しい環境へ向かうことは不安もあると思うけど、間違いなく得られるものはとても多いです。英語が話せる、話せないに関わらず、コミュニケーションをとることさえできれば誰もが優しく対応してくれます。

私もこれで海外との交流を終わらせるのではなく、色々な国に出かけていろいろな経験を積みたいと感じています。

1 研修に応募した理由

今後の社会において必要になっていくのは、AI を上手に活用できたり、コミュニケーション能力が高かったり、グローバルに活躍できたりする力だと思います。オーストラリア研修では、英語を使って現地の人と交流したり、文化の違いを学んだりすることができます。そうした経験は、これからの社会で大切な力を身につけるのに役立つと考えたので応募しました。



2 ホストファミリーおよびホームステイについて

オーストラリア研修でのホームステイでは、事前の説明では「シャワーは10分以内」と聞いていましたが、僕のホストファミリーは寛容で、時間の制限は特にありませんでした。また、ベッドの上で食事をするとか虫が寄ってくるため禁止されていたり、トイレのふたを開けたままにしておくと下水道からヘビが上がってきて家に侵入する可能性があるため、必ず閉めるように言われたりと、日本ではあまり聞かないルールもあり、文化の違いを感じました。



3 研修中に困ったことや苦勞したこと

オーストラリアでのホームステイ中に困ったことが2つありました。

1 つ目は、自分の言いたいことを英語でうまく表現できなかったことです。単語や文法がすぐに思い浮かばず、会話に困ることもありました。そんなときは、一緒にホームステイをしていた友達に聞いたり、Google 翻訳を使ったりしてなんとか乗り越えました。

2 つ目は、現地の人の英語が速かったり、発音がつながったりして聞き取りが難しかったことです。どうしてもわからないときは、相手にスマートフォンで文字を打ってもらい、Google 翻訳で意味を確認しました。身ぶり手ぶりでもある程度は伝えられましたが、正確に理解するには Google 翻訳の方が効率的だったので、そちらをよく使っていました。こうした体験を通して、自分の英語力の課題や、伝えようとする気持ちの大切さを実感しました。

4 研修で印象に残ったこと

研修で特に印象に残ったことの一つは、オーストラリアでは高速道路でなくても、制限速度が時速 100～110 キロととても速いことでした。日本ではそんなスピードを出すのは高速道路だけなので、とても驚きました。また、シートベルトに関するルールも厳しく、もし着用していなかった場合はおよそ 10 万円もの罰金が科せられると知りました。実際に車に乗るときも、ホストファミリーが「必ずシートベルトを締めてね」と何度も確認してくれたのが印象的でした。交通ルールが日本とは大きく違っていて、安全への意識の高さを感じました。





5 研修で学んだこと

オーストラリア研修を通して、言語が違っていると、お互いの気持ちや考えを伝え合うことが思っていた以上に難しいと実感しました。英語で何かを言いたいとき、すぐに単語が出てこなかったり、文の作り方がわからなかったりして、言葉に詰まってしまうことがよくありました。そのたびに Google 翻訳を使って対応していましたが、いちいち調べていると時間がかかってしまい、会話のテンポも悪くなってしまいました。

この経験から、相手とスムーズにやりとりするためには、英語の知識だけでなく、「とっさに話す力」や「気持ちをシンプルな言葉で伝える工夫」がとても大切だと学びま

した。うまく伝えられなかった悔しさもありましたが、それが今後の英語学習のやる気につながっています。

6 まとめ

今回のオーストラリア研修では、実際に海外の生活や文化に触れ、学校の授業だけでは学べない多くのことを体験することができました。

ホームステイ先では、事前に聞いていたルールと違うこともあり、シャワーの時間に制限がなかったり、トイレのふたを必ず閉めるように言われたりと、文化や生活習慣の違いを強く感じました。また、現地の人の英語は速くて聞き取りが難しく、単語や文法がすぐに思い浮かばないことも多くありました。そうしたときには Google 翻訳や友達の助けを借りながら、なんとかコミュニケーションを取ることができました。



特に印象に残って

いるのは、普通の道路でも車が時速 100～110 キロで走ることが当たり前だったことです。そして、シートベルトをしていないと約 10 万円の罰金になると聞き、安全意識の高さに驚きました。

この研修を通して、言語が違くとわかり合うことが難しくなるという現実を体感しました。翻訳アプリは便利ですが、毎回使っていると時間がかかり、会話のテンポが悪くなってしまいます。だからこそ、これからはもっと自分の力で英語を話せるようになりたいと思います。

今回の体験は、英語の大切さだけでなく、違う文化を受け入れ、相手を理解しようとする姿勢の大切さも教えてくれました。この経験をこれからの学びや人生にいかしていきたいです。

1 研修に応募した理由

以前から海外留学に興味があり、真庭市からの金銭面での援助や現地で働く日本人医師の話を聞くことができるということを知ったからです。

2 ホストファミリーおよびホームステイについて

日本とは言葉も生活様式も全く違って、慣れるのが少し大変でしたが、明るくて優しいホストマザーと一緒に泊まった友達のおかげでとても楽しく生活できました。



3 研修中に困ったことや苦労したこと

現地の人々はみんな話すのがとても速くて聞き取れないことがたくさんありましたが、分かったふりをせずに聞き直したりゆっくり話したりするようにお願いしたら快く受け入れてもらえて、コミュニケーションがとりやすくなりました。

4 研修で印象に残ったこと

休日、ホストマザーにサーファーズパラダイスに連れて行ってもらったことが印象に残りました。冬なのに海に入れたことやたくさんの人がいて、サーフィンをしている人もいてとても新鮮でした。海水の色や砂浜の質感が日本と全く違ってきれいでした。



5 研修で学んだこと

この研修を通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることができました。また、オーストラリアと日本の医療制度の違いについても知ることができました。



6 まとめ

この研修で得たコミュニケーション能力や学んだオーストラリアと日本の医療制度の違いを受験で活かしたいと思います。海外研修は思った以上に体が疲れるので体調管理をしっかりすることが本当に大事です。

1 研修に応募した理由

私がこの研修に応募した理由は自分の世界を広げたいと思ったからです。私は将来高校の社会科の教師になることを目指していますが、自分はまだ知らないことや経験していないことが多くあると感じています。日本の外に出て異なる生活や文化に触れることで今まで経験したことのない素晴らしい体験ができると思いました。この研修を通して自分の視野を広げる一歩を踏み出したいと思いました。

2 ホストファミリーおよびホームステイについて

私がお世話になったホストファミリーはとても優しい方々でした。特に印象に残っているのはホストファミリーの子供と関わったことです。子供の英語は大人と比べるとまだ少し聞き取りやすく、今までに聞いたことのなかった単語なども出てくるので自分の成長にもつながりました。

またホストファミリーは今までにたくさんの国を訪れている方で、日本にもたくさん興味を持ってくれる方でした。その中でホストファミリーに日本語を教えてその場で使っていたりする姿はとても嬉しかったです。

3 研修中に困ったことや苦労したこと

はじめは簡単な英語がまったく聞き取れなく自分の英語力のなさを痛感しました。喋るスピードも速すぎて単語すらまともに聞き取ることができませんでした。一番初めに言語の壁にぶつかりました。





4 研修で印象に残ったこと

最初英語が聞き取れず、自信もなかった自分が少しずつ殻を破ってホストファミリーの方々に話しかけに行き、お手伝いをするような行動ができるようになっていくのがとても嬉しかったし、会話をするのが毎日楽しみになっていました。

5 研修で学んだこと

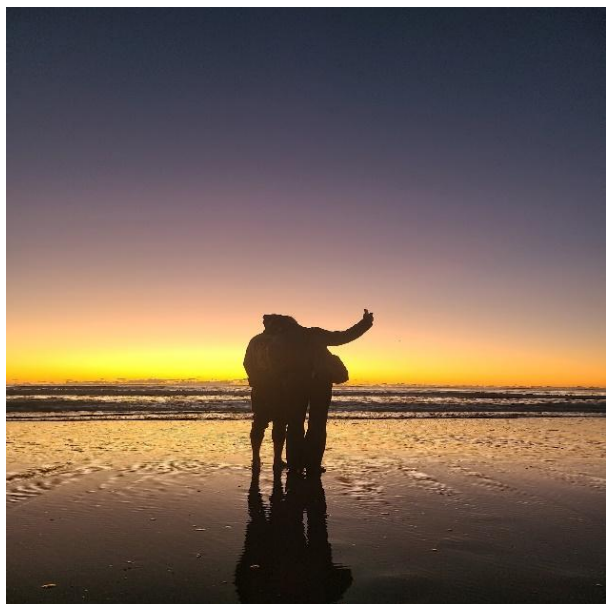
私は 2 週間オーストラリアに留学して改めて自分の英語力のなさを実感しましたが、それとともにどうやって伝えようか、またどういうことをしたら英語が少しでもわかるようになるか、聞き取れるようになるかなど多くのことを考えた 2 週間になりました。ホストファミリーに初めて会って車で会話をした時、私は何を言っているのかまったく聞き取る事ができませんでした。How old are you? と尋ねられ、私は初歩的な質問でありとても簡単なのにまったく聞き取ることができずどうすればいいか全くわかりませんでした。僕のペアはアメリカ留学経験者でありとても英語ができた人なので、こういうことを言ってるんだよと翻訳してくれて初めて内容が理解できました。その時に今までに経験したことのない焦りと不安を感じました。授業で聞いていた英語とは違って全部の音がつながっていて、話すのもとても速く、最初は単語すら聞き取ることができませんでした。ペアがとても英語ができるので食事中もペアだけがホストファミリーと会話をして僕だけ黙っていることが 2 日ほど続きました。しかし 2 日くらい経った頃から会話中の単語が少しだけ聞き取れるようになって、少しだけ会話ができるようになりました。私はホストファミリーとペアが会話した内容を自分で小さい声で自分なりに言ってみてそれで単語などを聞き取るようにしていました。3 日目、4 日目くらいになって、喋ることができない不安や焦りよりも自分たちが手伝いなどをせずに至れり尽くせりしてもらっていることや、あまり会話もせずにご飯を食べたら自室に戻る行動に不安を感じました。僕は英語がまったくできないので英語ができるペアがとても救いになった一方で、ペアと同じ行動をすれば大丈夫だろうという良くない考えもありました。ペアが自室に戻ったから僕も戻るみたいなことを 3 日目、4 日目はしていました。しかしこれでは絶対に良くないと感じて英語が聞き取れなかったり、話せなくても、もっと話しかけたり手伝いをしようと思いました。What is for dinner tonight? や May I help you? など簡単だが大事なことを聞いたり話したりするように心がけました。その時にはもう英語力がないことへの不安などはほとんどなくなっていました。4 日目くら



いになるとホストファミリーの子供と仲良くなり始めて、子供と関わる上でも新しい単語を学ぶ事ができ、自分から歩み寄ることが大切だと思いました。はじめ子供は僕に対してとても恥ずかしそうにしていた、あまり近寄ってこようともしませんでした。ホストファミリーに **May I help you?** と尋ねたときに今は特にないから子供たちとしっかり遊んでと言われました。だから少し怖かったけど勇気を出してサッカーをしました。そこからホストファミリーの子たちと仲良くなってトランポリンをしたり、おんぶをしたりしました。子供の英語は単語が理解できないことはあるが、内容はわかりやすく少し話しやすいので自分の自信にもつながりました。私は今まで海外に行った経験がなく、海外に行きたいともあまり思いませんでした。しかし今回の留学経験でその気持は大きく変わりました。ホストファミリーの方々は今までに多くの外国に訪れたことがあるらしく、その話を聞いて羨ましいと思いました。また **What does “cute” mean in Japanese?**と聞かれるなど日本語の話をすることがとても楽しかったです。6日目のときに私達はホストファミリーとその弟家族や姉家族とBBQをしました。その時にもオーストラリアの伝統的なデザートである「ラミントン」を教えてくれたりしました。その中でご飯を食べているときに家族で難しい話をしていました。私は少ししか聞き取ることができませんでしたが、姉の家族が元々アフリカに住んでいたけど、今アフリカは黒人と白人の差別が激しく危険な状態なのでオーストラリアに帰ってきたという話をしていました。そんな苦しい状況にも関わらず姉家族はとても優しくしてくれて、とても温かさを感じました。ここまで留学が楽しいと思えたのはホストファミリーのおかげです。私は英語力が低いのに関わらず、意図をくみ取ってくれたり、ゆっくり話してくれたりしたホストファミリーの方々に感謝しかありません。だからこそ、私はもっと英語を話せるようになりたいし、英語がしっかりできるようになってもう一度ホストファミリーに会いたいなと心から思いました。また英語ができなくてもホストファミリーは言いたいことを理解してくれるし、話が聞き取れなくても顔の表情などから読み取れることもあるので、しっかり色んなことにどんどん挑戦することがとても大切だと分かりました。ホストファミリーとだけでなく地域の学校の生徒と関わる時間があり、それもとても重要な時間だと思いました。話がわからなくても共通の趣味や漫画やアニメで話を広げることができ、生徒たちも私達に興味をもって色んな質問をしてきたり翻訳機を使って教えてくれたりしたので、嬉しかったし自分の自信にもつながりました。

6 まとめ

この研修を通していろんなことに挑戦することが大事だと思いました。私自身英語が全くできなくて、特にリスニングなどはとても苦手です。実際に参加してみると聞き取れないものの、相手の表情や話し方などで内容を理解できることもあるので、英語ができないからといって参加しないというのはとてももったいないと思います。少しでも英語の能力があるとか、興味がある方はどんどん参加してみたらいいと思います。とても良い経験になると思います。



1 研修に応募した理由

まだ将来の進路が具体的に決まっておらず、普段とは全く違った環境で自分の将来の進路について考える機会が欲しかったからです。また、私は商学や観光学に興味を持っていてオーストラリアは商学の面では他国との貿易も盛んで日本との経済的なつながりも強く、観光はオーストラリアの重要な産業になっていることから自分に適していると思ったからです。

2 ホストファミリーおよびホームステイについて

最初は英語での会話や文化の違いに不安がありましたが、ホストファミリーはとても優しく迎えてくれました。食事の時や空いた時間にはその日に起こったことや日本のことなどについて話すことが多く、自然と英語に慣れることができましたと思います。週末には一緒に観光地を訪れたりして家族の一員のように接してくれたりしたのが嬉しかったです。ホストファミリーとの交流を通して異なる文化を理解しようとする姿勢の大切さを学ぶことができたし、何よりとても楽しかったです。短い間でしたがホストファミリーとの思い出は一生忘れられないものになりました。



3 研修中に困ったことや苦勞したこと

研修中に一番困ったことはやはり英語でのコミュニケーションでした。到着してすぐはホストファミリーや現地の人の話す英語はとても速く感じたことを覚えています。また、自分の思っていることを伝えられず、何度も言い直したり言葉に詰まったりしてしまいました。しかし、そのようなときにはジェスチャーを使ったり伝えたい言葉の単語だけでも言ったりすることで、少しずつコミュニケーションをとっていきました。向こうの方たちは言葉に詰まっているときでも親切に最後まで話を聞いてくれたりしたので、徐々に自信を持って話せるようになりました。



4 研修で印象に残ったこと

最も印象に残ったことは現地の学校での授業体験です。日本とは違い、生徒が積極的に自分の意見を述べ、先生とのやり取りもフレンドリーな雰囲気で行われていたことに驚きました。学校を一緒に回るバディーがサポートしてくれ、現地の子たちとも休み時間などに会話することができて楽しかったです。現地の子たちは日本のことにとても興味を持っていて日本の話をたくさんしたことも印象に残っています。



5 研修で学んだこと

今回のオーストラリア研修を通じて、言語の力だけでなく人とのつながりの大切さを学びました。英語を完璧に話すことができなくても、相手の話をしっかりと聞き、自分の思いを伝えようとする気持ちがあればコミュニケーションは成立することを実感しました。また、文化の違いを知ることで自分の価値観を見つめ直すいい機会にもなりました。現地の方たちのオープンでフレンドリーな姿勢から積極的に関わる姿勢の大切さを学びました。困ったときに助けてくれたホストファミリーやバディーとの交流を通じて、人に頼ることや感謝の気持ちを持つことの大切さも感じました。

6 まとめ

今回の研修で得た一番の学びは、勇気を出して一步踏み出すことの大切さです。初めての海外、初めてのホームステイなど初めてのことだらけで不安や緊張がありましたが、自分から挨拶をしてみる、笑顔で話しかけてみる、そんな小さな一歩のお陰で成長できたと思います。この経験からこれからも新しいことに対して一步踏み出す勇気を持ち続けたいと思いました。そして成長できるチャンスを自分から掴んでいこうと思います。



1 研修に応募した理由

今まで学校で習ってきた英語を使う仕事（具体的にはキャビンアテンダント）に就きたいと
思っているためです。また、留学に興味があったため。日本の外に出て日本とオーストラリ
アの違うこと、似ていること、改めて日本の良い所を見つけたいと思ったためでもあります。



2 ホストファミリーおよびホームステイについて
父母娘2人の家で過ごして、同年代のホストシスターとゲームしたり散歩したり、ポップコーンを食べながら映画を見たりして、実際の家族のように接してくれました。ホストマザーは明るく元気な人で、自分が英語を聞き取れなかった時、ゆっくり話してくれたり言い換えて話してくれたりしたことが嬉しかったです。課題で出された英語の問題で分からない単語があれば、意味を優しく教えてくれました。ホストマザーが作るご飯は美味しくてホームステイ中残したことはありませんでした。私がピザを好きなことから、休日にたくさんのピザを用意してくれてピザパーティーをしました。

3 研修中に困ったことや苦労したこと

来たばかりのときにホストシスターとあまり話ができなかったことです。今何の宿題しているのか、好きな教科は何かを質問して会話を広げていきました。



4 研修で印象に残ったこと

【嬉しかったこと】

バディーの子と英語で会話ができるか不安でしたが、自分からバディーへの質問やその授業でどんなことをするのかをしっかりと聞けました。その中で好きなアーティストと一緒にいることが分かって、どんどん会話がはずみました。登下校の車の中では近い距離で話ができるので、その時間を有効に使うと意識してホストマザーと話しました。ホストシスターが私にゲームしようと誘ってくれて楽しく遊べました。散歩のついでに近くのドーナツ屋に寄って甘いドーナツを食べたりもしました。

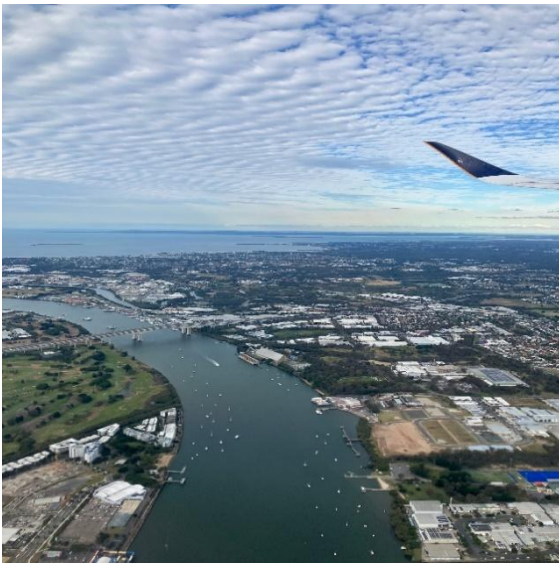
【驚いたこと】

近くの公園に行ったとき、オウムが空を飛んでいたこと。(日本では野生のオウムがいないから。) オーストラリアは1月に新学年になって12月に修了すること。(ホストマザーから聞いた話) 高校の卒業式のあとに、卒業生全員が集まってドレスやスーツを着てパーティーをすること。(ホストマザーから聞いた話) ホストファミリーの家にキャンピングカーとプールがあったこと。



5 研修で学んだこと

高校でしっかり英語を勉強していても、実際に現地に行って会話をするとなかなかそれを使うことがなかったり、発音やアクセントが正しくないせいで通じなかったりしたので、日本の英語教育は書くことを中心にするのをやめて、スピーキングや英会話をもっと増やすべきだと思いました。日本人の英語が上手くならないのは、テストに合格するための難しい英語を習うからであって、これからのグローバルな世界では書くこと中心でなく、話すこと中心に切り替えるべきだと思いました。もっと海外に出て日本が海外を見習うほうが良いところを発見したいと思いました。日本人は完璧主義が多いから「英語を完璧に喋れない自分は喋らない」と思っている人が多くいると思いますが、単語が並んでいるだけでも同じ人間だから何となく言いたいことが伝わると思うので、海外に滞在して他の言語を話すことは大事だと思いました。



6 まとめ

世界は学校や日本だけではない。上手いかなかったり、できなかったりして落ち込んだときにこの言葉を思い出そうと思いました。マインドの面で刺激をたくさん受けたので、ポジティブ思考をどんどん続けていこうと思いました。

英語が完璧じゃなくても行くべき！楽しそうだなと思っただけでも行ったほうが良いと思えます。他校のメンバーとも仲良くなれて楽しいから帰国したあと、行ってよかったと思うはず！

1 研修に応募した理由

中学生の頃から英語が好きで、できれば高校在学中に留学をしたいと考えていたからです。

2 ホストファミリーおよびホームステイについて

ホストファミリーの家には、子育てを終えたホストマザーと、そのホストマザーと家族関係にない同居人の男性がいました。最初は事実婚かと思っていましたがそうでもなく、シェアハウスのような関係で驚きましたが、どちらも優しくて会話をするのもとても楽しかったです。また、ホストマザーの娘さんとお孫さんが20分ほど離れたところに住んでおり、家に来てくれたり、向こうの家にも行ったりしました。6歳のお孫さんのゼイビアくんがたくさん遊びました。とても元気で可愛かったです。シャワーは10分までという決まりくらいしかなく、あとはかなり自由にさせてもらえました。朝ごはんにはコーンフレークや、日本では食べたことのないスティック状のパイ生地のもの、オーストラリアで人気の豆を載せたパン、ベジマイトを塗ったパン（これは苦手だった）を食べて、日本ではサラダを食べると言ったらとても驚いていました。土曜日は仕事について行ったり、その後にたくさんの場所に行ったりしました。ゴールドコーストのサーファーズパラダイスでお土産を買ったり、タンボリンマウンテンに行くととてもきれいな景色を見たりしました。帰りがけにアップルティーを飲んで帰りました。家には犬がいて、ご飯を食べるときにいつも膝の上に顔を載せてくるのがとても可愛かったです。夜寝る前にホストファミリーとソファに座って会話するのが楽しかったです。ユーチューブで、オーストラリアのスラングや動物についての動画を一緒に見て、オーストラリアの犬の映画「Red Dog」を見ました。また、アクティビティの写真や日本の写真を見せることもありました。また、ホストファミリーがたくさん外国に旅をしている人だったので、旅の話を聞いたり、写真を見せてもらったりしました。日本に来年来るということで、日本の話もしました。英語での会話は難しく、更にアクセントも大きく異なるので、高校でALTの先生と話すのとは全く違って難しかったし、伝えられないこともたくさんありました。それでも本当に楽しく幸せな時間が過ごせたと強く感じていて、ホームステイが経験できて本当に良かったです。

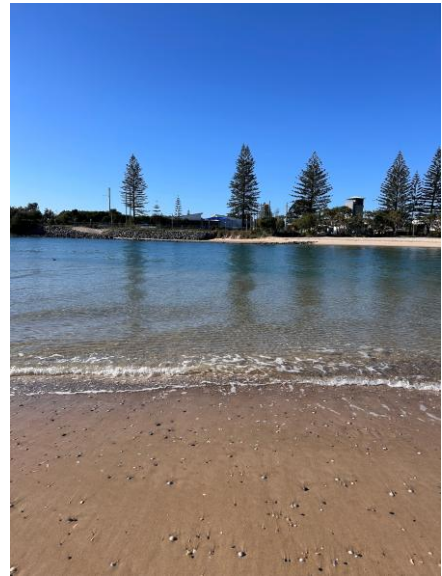


3 研修中に困ったことや苦勞したこと

習っているアメリカ英語とは違うオーストラリアのアクセントの聞き取りは本当に苦戦しました。また、こちらが日本訛りでアメリカ寄りの英語を使っても聞き取ってもらえるだろうと思っていったがなかなか聞き取ってもらえず、何度も聞き返されました。最初は翻訳機を使うことに抵抗があり、全く使っていませんでしたが、伝えたいことが伝えられないことは良くないし、翻訳機を使うことで新しい語彙の使い方や文の作り方を発見できて伝えなくても伝わらないときは翻訳機を使って会話をしました。それで良かったと思いますし、使わないよりも成長できて翻訳機との付き合い方を学ぶ機会にもなりました。また、財布をなくしてとても困りました。カードも現金も大丈夫だろうと思って同じものに入れていたため、なくしたことに気がついたときには本当に不安でした。ホストファミリーやルームメイトがそばにいて安心させてくれたため、パニックになりすぎず対処をしました。1人だったら無理だったと思います。また、料理を食べるときに日本では最初から小さく切ってあって、ナイフがなくても食べられますが、オーストラリアでは大体そのまま出てきてナイフとフォークを使って食べなければならず、カトラリーの使い方がなかなか難しく毎食苦勞しました。ホストファミリーや器用なルームメイトに教えてもらいながら上達を図りましたが、やはり難しく練習あるのみだと思いました。

4 研修で印象に残ったこと

違いを探そうとしたけど、制服があることや車のハンドルの位置等似ていることの方がたくさんあったこと。鳥や木がすべて違うこと。現地校でイスラム教のバディから、宗教について教えてもらったこと。人々は優しい。毎日シャワーを浴びない、タオルを変えない。現地校の授業スタイル、いろいろな年齢の人たちが同じクラスで授業を受ける。心理学的な授業もある。数学がクイズみたい。席が自由、男女関係なく発言をする。クッカパラの鳴き声。大学のきれいさや設備。プレゼン発表で翻訳をほぼ使わずに原稿を作成して発表できて、それが現地の教授に褒めてもらえて1位をもらえたこと。子供と話すときに簡単な言葉でいいからスムーズに英語が出てきたこと。海が大きくて青い、山はフラット。英語レッスンの日にたくさん英語を使って話したり、英語を書いたりしたのを難しいと感じなかったこと。大学生に聞いた所、オーストラリアと日本では求められるスキルが違うこと。日本が学歴重視なところがあるということとても驚いていました。長時間の移動も初めてだったので大変だったけど楽しかったこと。初対面の人とでも研修が始まって3日後には完全に仲良くなれたのが嬉しかったこと。



5 研修で学んだこと

私は今まで日本でさえ2週間も家から離れたことはなかったため、初めての長期の旅、しかも海外という初めてだらけの旅に不安も抱えながらの出発でしたが、バスに乗ってからは楽しくワクワクした気持ちでの2週間、トラブルもあったけれど過ごすことができました。また、私は外に出るとご飯が食べられなくなったり、不安で体調を崩したりしがちな性格で最初はオーストラリアで何か困ることがあるだろうなと思っていました。しかし実際

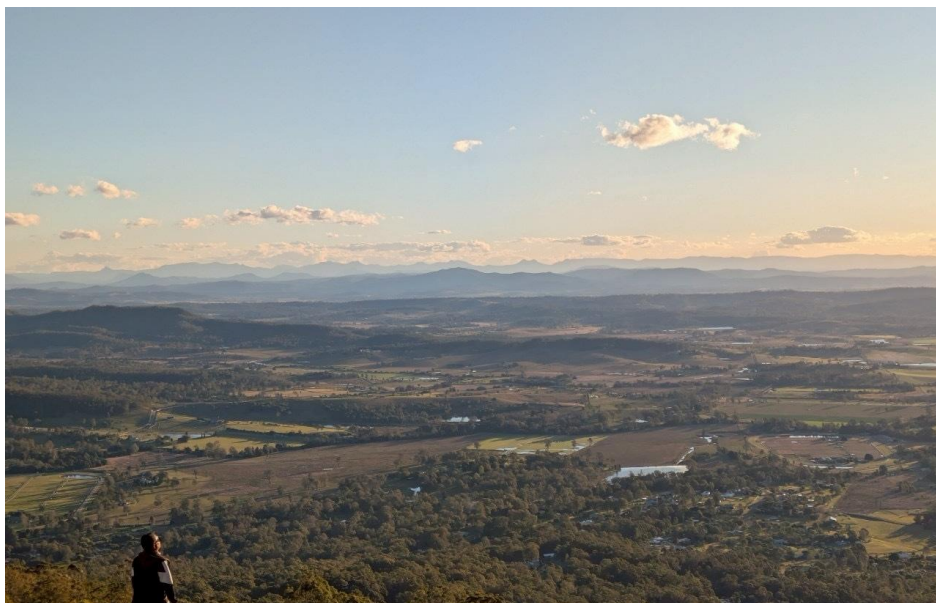


に行ってみると、自分の海外マインドが開花して何も不安はなく、家にもオーストラリアの環境にもすぐに馴染んで普通にご飯を食べたり元気に生活できたりして、自分でも驚いた一面を発見しました。また、長時間のフライトや海外を経験して、意外と世界って身近にあってその気になればたかさんの世界を見ることができることを知ったのが大きな発見でした。また、現地校のバディと話したときに、偏見や誤った情報を知らず知らずのうちに持っていることがあることがわかりました。そして、日本語の

情報は本当に限られていて、正しい情報を英語で取り入れられるような人になるためにも英語をもっともっと勉強したいと強く思うようになりました。今まで日本にいて、海外は怖い、日本は安全だと思っていました。もちろん、海外は怖い部分だってあるけど、絶対にそれ以上に面白くて学びがいのある世界だとわかり、日本の良い点・良くない点も海外に出て改めて感じ取りました。日本の学校で学ぶ歴史は苦手だけど、ほんの少しでも知識として蓄えておけば助かるなと思いました。海外に初めて来て、世界って本当に面白いと知って、怖がらずどんどん外に出てみたいと思えるようになったのが大きな学びと成長でした。

6 まとめ

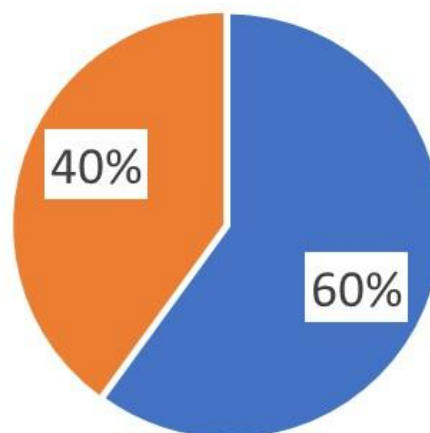
今までぼんやり、迷いながらも何も決まらずに焦っていましたが、この研修に参加して、大学でどう学んでいくか、これからどう生きていくかのビジョンが見え始めました。オーストラリアの温かい人達や大自然に触れたこの思い出を自分の宝としてこれからも特に英語の勉強に励みます。来年度の応募者に向けて最初から相談できる仲間と海外に行けるという経験はなかなかないですし、特に海外が初めてな人は参加して損はないです。まだ経験前なのが本当に羨ましいです。迷うなら行くべきですし、参加する際は目的意識を持って準備をしましょう。必ず得られるものがあるはずです。



ISA アンケート結果

全体的に見て今回の
プログラムは
満足できましたか？

- 非常に満足
- 満足
- 期待したほどではない
- 不満足



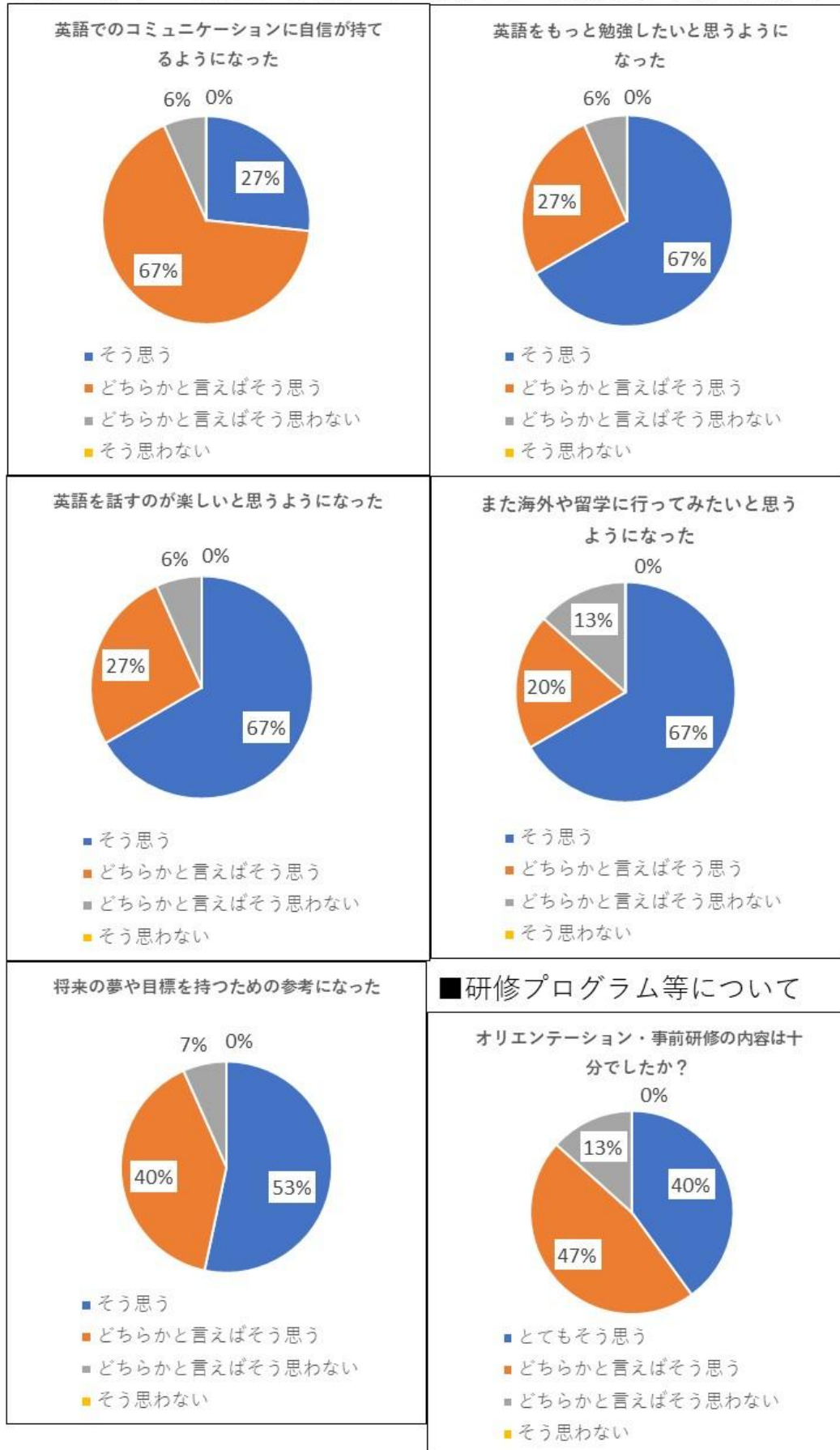
「非常に満足」理由

交流できた現地の人々がみんな温かかったし優しかった
今まで私は日本から出たくないという意思がありました。しかし初めて海外に行ってホストファミリーと関わって私はもっと多くの外国人と関わりたいという新たな気持ちを抱くことが出来ました。私のホストファミリーはとても優しく愉快的な方々でした。自分の英語力がないことをちゃんと理解してくれ、ゆっくり話してくれたりまた自分自身も聞き取れなくても相手の表情などからしっかり読み取ることをとても意識しました。最初の方はまったく英語が聞き取れなくても自分の英語力のなさにとても痛感しました。でも日が経つにつれて人ともっとコミュニケーションをとりたいと思うようになり、聞き取れなかったり、喋れなくても恥ずかしいと思うことがなくなり逆にもっと話したいと思うようになりました。この研修の経験で私はもっと多くの外国で多くの人と学びたいという新たな目標が出来ました。自分自身まだまだ英語はまったくできなく研修期間も2週間なので英語力が爆発的に伸びることはありません。しかし私にとっては自分に新たなものをくれる大きな2週間であり、それを与えてくれたガイドティーチャーやホストファミリーの方々には感謝しかありません。これからも私は自分の英語力を高めるために頑張りたいと思います。
今まで海外に行ったことがなくとても不安ななか参加したが色々な経験ができ、成長できたと思ったから。特にホームステイはとてもいい経験になりました。
とにかく楽しかったまず海外に行くのが初めてだったから不安もかなりあったけど、初めてがこの留学でよかったと本当に思った。
host familyにすごく恵まれ、毎日笑顔が絶えない生活ができたし、オーストラリアの色々なことが知れてとても知識が増え、英語が楽しいと思えるようになったから楽しかったから
ホームステイ先でおいしい食事を用意してもらったり、楽しい会話ができたから。
毎日楽しかった
文化の違いに触れて、今までにない経験ができたから。

「満足」理由

観光も交流もできたから
ほとんどトラブルもなく、ストレスもなく良い生活が送ることができたから。
自分が想像していたくらいの経験をすることができたから
私にはホームステイ先の生活が少し合わなかったから
思ったよりハードスケジュールだったし、語学というより文化の勉強がほとんどだったから。
幅広い分野に触れられたから。プレゼンや学校訪問など、みんなが頑張れば何かを得られる内容だったから。

■プログラムを通して自身の中で気持ちの変化はありましたか？



■ 来年、海外研修に参加する生徒へのアドバイスやコメントはありますか？

コメント
まずは全力で楽しむこと、次に勉強で行くと楽しく過ごせる
英語力が無くても全然大丈夫だと思います。僕自身リスニングがまったくできなくてそれは研修にも響きました。しかしホストファミリーや現地の人々はゆっくり話してと伝えたらゆっくり話してくれるし、とにかく頑張ってやったら伝わることもあります。しっかり積極的に頑張ったら何とかなります。
今の時期のオーストラリアは冬だと聞いていて冬服をたくさん持っていったのですが、日本の冬の感覚とは全く違って昼間はとても暑かったので半袖を持っていたほうが良いと思います。
ホストファミリーにもよりますが、英語は案外話せなくてもゆっくり喋ってくれるので大丈夫!!! でも英語できた方が絶対楽しいだろうなと思うところがかかなりあったので、極めるならばリスニングをひたすらやっておけばいいかなって思います。
英語が苦手な人にはオールイングリッシュだから少し苦痛になるけどとにかくリスニングをしていると自然と内容も入ってくるからとりあえずリスニング力を鍛えて欲しい。内容を聞き取ることができれば単語で返したとしても伝わるので単語力も鍵になると思った。
とにかく荷物は計画的に詰めましょう。帰りの荷物で僕みたいにパンパンになると大変な事になります。また、正直なところですが、英語が苦手だなと思う人でも全然大丈夫です。とりあえずチャレンジしてみたいかでしょうか。
アイロンやドライヤーがないことがあるので持っていっておくと安心 研修に行く前にできるだけ単語を覚えておくのと聞き取った時に話の内容を理解しやすいし、自分のことを伝えやすくなる 話すスピードがとても早いので動画などを見たりしてスピードに慣れておくといいかも 楽しいことばかりではないけど、その分自分が成長したなと感ずることがとても多かった自分からコミュニケーションを取ろうとすることが1番大切だと思う
クレジットカード(プリペイドカード)を持っていった方が良い。お金の計算をしないで済むから凄く楽。
財布の管理をしっかりする。持っていくお金を全て財布に入れておくと、スリに遭った時に貸してもらわなければならない。英語を喋るのに自信がなかったとしても、ホストファミリーはしっかり聞いてくれるし、あとから聞けばよかったと後悔してしまっても遅いからしっかり英語を話す! たくさん写真を撮る。撮りすぎくらい撮っていいと思う。
英語を勉強しておく
リスニング力を高める、単語を覚える、圧縮袋は多めの方がいい、洗面用具はなるべく使い切りがいい。
箱ティッシュはあったほうが絶対に良い。プリペイドカードとかクレジットカードも絶対に作っておいた方がいい。語学面では今まで勉強してきたものから新しく学ぶことはあまりなかったけど、自然と話せるようになるし、めっちゃ聞き取れるようになった。
しっかり準備をして、目的意識を持つこと。また、現地で何かを発見した時に後回しにせずにノートに記録すること。延長コードや小さなノートをいくつか、動物の毛をとるコロコロが役に立ちました。なんとかなるから頑張ってください。

■全体を通して最も印象に残っていることや学んだことは何ですか？

コメント
みんなで買い物を自由にしたり現地の人たちと話したり遊んだりしたこと
ホストファミリーと何気ない会話がとても楽しかった。ホストファミリーは日本語を教えてと言ってくる方々で教えるほうとしてもとても楽しかった
英語を話せるかとても不安だったが、現地の方はゆっくりと話してもしっかりと聞いてくれるので焦らないことが大切なことが分かった。また少しの文法の間違ひはあまり気にしないと現地の人から聞きました。なので自分の知っていることを使って頑張って会話できたのが嬉しかったです。
ベジマイトが食べれないほど不味いと思っていたら案外食べれないこともなくて驚いた。外国の小銭の使い方は使ってみたけどやっぱり苦手だ。
ホストファミリーがすごく親切で簡単な英語でこっちが伝わりやすいように話してくれて本当にたくさんのコミュニケーションがとれて毎日笑顔だったことが1番印象に残っています。家族の時間をとても大切にしている1人ずつ同じ話題について話したり、毎日の夕食後UNOなど色んなボードゲームができ、私の憧れる家族像だなと思いました。お父さんの誕生日を祝えたり、サッカーの試合を見えたりなどホストファミリーによってみんなとは違う経験ができすごく良かったです。オーストラリアと日本では全然異なる文化や同じような文化もあるということを学んだ。また、オーストラリアはすごく多様性の国でとても印象が良かったので日本もオーストラリアみたいになって欲しいと思った。進路についても教育一択だった私が国際関係の職もいいなと思うようになったので海外に目を向けることはすごくいいことだと学びました。本当に本当に色々な人に感謝し、この経験をこれから活かしたいと思いました。
オーストラリアと日本との文化の違い。特に日本のトイレがどんなに恵まれた物であるかを感じました。
オーストラリアの学校の制度？が日本と全然違うことに驚いた 意外と日本人の人を見かけること（旅行者や現地で働いていたたり大学に行っていたりする人）
ルームメイトが財布をなくしたこと
ホストマザーが用意してくれるランチに野菜と果物があって嬉しかった。英語レッスン中にアクティビティが入って楽しくみんなで遊ぶ時間があったのが良かった。スーパーマーケットでたくさんのお菓子を買えたのが良かった。朝の登校中の車でたくさん英語を使ったことで、徐々に聞き取れる英文が多くなって嬉しかった。
ホストファミリーのお姉ちゃんとその友達と夜に爆音でドライブしながらアイスを食べに行った事がすごく楽しかった。
最も印象に残ったことはオーストラリアの学校のウィズダムカレッジに行ったことです。オーストラリアの文化などを学んだ。オーストラリアではモーニングティーと言う時が時間があってお菓子を食べたりする時間がありました。自分達が行った学校にはサッカーコートとバスケットコートがあって、モーニングティーの時間やお昼休みの時に、遊んだりします。一日中英語を聞く日だったのでとても疲れました。言語の壁をすごく感じた。自分の英語力の無さを実感した。
いろんな人が本当にフレンドリーで日本より話しかけやすくてすごく快適だった。現地の学校の生徒が使っているパソコンが日本より本格的だったこと。
ホームステイで、夜にホストファミリーとお話するのが楽しかった。また、ホストファミリーはやっぱり言えば理解してくれることが多いから怖がらずに早めに言うことでお互いの不信感をなくすことができる。最もよく学んだことはやっぱり相手を気遣いながらも自分が言いたいことは言うこと、聞くことだなと思った。現地校でイスラム教のバディーに宗教のことを聞いたら自分は間違った偏見も持ってしまうのだなと思った。また、財布はふとした時に無くなるがあるので、常に意識を向けること、また、もし無くした時の対策を考えておくこと。

